

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-1 フラワーランド園芸ミニディ 〕

運営委員長 土肥真人

花壇を日々維持し美しく花を咲かせることは、大変な作業だと思います。ご説明にありましたように、施設や学校の人たちとの共同作業を通して、花を咲かせることの大変さや楽しさを分かち合ってください。またぜひ、高齢者、障がい者、子どもたちが花に囲まれながら一同に会し、交流できる機会を作れないか、検討して欲しいと思いました。

運営委員 板垣正幸

花づくりを通して地域のコミュニティの輪を広げていただきたい。さらに管理について施設と連携されるといいですね。

運営委員 市川 徹

自分たちのスキルを生かした地道な取り組みが大変素晴らしいです。が、今のところすべての花壇の世話をしているという点が気になります。最初はやむを得ないにしても、そのままでは活動を広げるのが難しくなりますので、施設の人たちに手入れのしかたを伝えるなどして、より多くの施設に花を広げられるよう考えてみてください。

運営委員 鵜尾雅隆

「花で人と地域を結ぶ」というコンセプトを、「はじめの一步」から着実に実践し、広げてきておられる様子を拝見して、嬉しく思いました。今後は、受益者負担と自立発展性がポイントだと思いますが、引き続き頑張ってください。

運営委員 小河原孝生

はじめの一步から拠点の拡大に伴い、受益者の負担や自己資金の確保、花壇ボランティアとの交流の拡大など、今後の活動に向けて課題が明確になってきています。花苗の種子からの育成など手間は大変ですが、持続可能な活動を目指してください。

運営委員 小原美穂

ハードルはあると思いますが、高齢者、障害者、子ども達に、草花のお手入れに関わってもらおう工夫があるともっと効果的ではないでしょうか。生き物を育てたり、手入れすることで心が豊かになると思います。また、この3者間に接点があると、それぞれが点で存在している状態から、面になり、可能性が広がるのではないのでしょうか。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

運営委員 影山知明

地道で着実な活動に共感しました。一部、資料にも書かれていましたが、苗や培養土等、自らつくっていかれてもおもしろいのではないかと思います。そのための投資費用であれば、より積極的に助成できると思いました。

運営委員 佐谷和江

はじめの一步部門から活動が着実に進んでいると思います。今年もぜひ実績を積んで下さい。また、会員の輪を広げることも考えてみて下さい。

運営委員 首藤万千子

フラワーランド花のボランティア養成講座を終えた皆さんがそのお力を地域にわけてくださるのは本当に素晴らしいことと思います。高齢者の皆さん、障がいのある皆さん、そして子どもたちと、ぜひ花づくりの楽しさを分かち合ってください。地道な活動を続けている皆さんだからできることと思います。外の作業だから、ふと通りがかった人たちも参加できるといいですね。皆さんの活動をととても楽しみにしています。

運営委員 福永順彦

高齢者、障害のある人、子供たちと協力して花を育て、つながりを広げていく活動に共感を覚えました。今いるメンバーで一つひとつの花壇を、無理せず丁寧に管理していると感じました。さらに仲間を増やし、活動を広げていかれることを期待します。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-3 喜多見 〕

運営委員長 土肥真人

委員の席の目の前でプレゼンテーションは迫力がありました。まちの歴史をとりもどそうという大切な取り組みだと思います。100人の子どもたちが宮昇殿を奏でながらまちを練り歩く風景は、考えただけでも素晴らしい。またそれが戦争で痛めつけられた悲しく美しい喜多見囃子の復活の一步であれば、戦争から帰ってこられなかった舞手、奏手の方々へのまちをあげての供養にもなるかもしれませんね。助成額は十分でないかもしれませんが、ぜひ子ども達の宮昇殿、実現してください。

運営委員 板垣正幸

伝統を守り次世代に引き継ぐことは大変大切であり、是非多くの子供たちに伝えてほしいと思います。

運営委員 市川 徹

地域に伝わる伝統の能の復興ということで、大変意義のある試みだと思います。が、申請書上の計画を見るに内容が盛りだくさんで少し急ぎすぎな気がします。地域に浸透するまで時間がかかるでしょうから、一年で一気にすべてやろうとせず、子どもたちにも納得してもらえよう、少し地道に取り組まれてはいかがでしょうか。

運営委員 鵜尾雅隆

地域で失われつつある、地域社会のつながりを、祭りや踊りといった伝統的な活動の再活性化を通じて、特に子どもたちに働きかけることにより取り戻していこうという視点はとてもいいと思いました。第一回ということもありますので、まずは確実に子どもたちがしっかり参加する祭りの実現に取り組んで欲しいと思います。

運営委員 小河原孝生

プレゼンでは、神楽や祭囃子の後継者不足、こどもたちに日本の心を伝える重要性が伝わりました。謝金が1/2を越えているところを減額しましたが、提灯セットの販売など、自主財源確保の道筋も見えているので、今年の成果を期待しています。

運営委員 小原美穂

消えつつある地元の伝統芸能を復活させ、後世にまで残していこうという試みはとても素敵だと思います。奥が深いだけに、まずは最初の1年で何をすれば良いか焦点を絞って活動されることで、今後の活動が長く続くように思います。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

運営委員 影山知明

なかなか経済的な文脈には乗りにくい活動と思われるだけに、まさにまちづくりファンドが求められる領域と思います。ただ、神楽や能がなぜすたれてきてしまっているのか、原因分析がもう少しあるといいように思いました。単に触れる機会が少なくなってしまうことだけが問題なのでしょうか？

運営委員 佐谷和江

神楽やお囃子を残していきたいという強い熱意を感じました。ぜひ、いろいろな方法で、子どもたちにアプローチして行ってください。やることを絞ってもいいかもしれませんね。

運営委員 首藤万千子

「子どもたちが祭囃子を好きになるように、小さいうちから耳に入れたい」というお話に賛同します。まちの音風景は、もしかしたら視覚的なものより、もっと印象に残るかもしれません。地域の子どもたち、大人たちが誰でも参加でき、親しめる仕組みづくりをぜひともつくってください。期待しています。

運営委員 福永順彦

子供たちに地域の文化を伝承していく活動は、地域のまちづくりの基本にあるものだと思います。子供たちは毎日忙しく、難しいこともあるかと思いますが、まず、その良さを大人たちが本気で実感していれば、おのずと伝わっていくものと私は信じています。ぜひ長く継続していただきたい活動です。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-5 野川（世田谷区部）の多自然川づくりを考える連絡会 〕

運営委員長 土肥真人

小さな生き物たちをもう一度まちに迎え入れることはとても大切なことだと思います。その為には物理的な環境はもちろん、まちの人々の心に受け入れられることも大事です。ぜひ魅力探しや環境調査、外来種駆除や在来種の移植などの作業を、多くの市民の方と共同して実施することを検討していただければと思います。

運営委員 板垣正幸

環境に配慮した多自然型川づくりは大切だと思います。河川の安全性と両立した提案を期待します。

運営委員 市川 徹

進行中の計画に対する提案実現への道筋として緊急を要する取り組みであり、ぜひ応援したいです。多くの参加団体や参加者間の意見を調整することは非常に大変でしょうが、ぜひがんばって取り組んでほしいと思います。みんなが納得する提案がこの活動から生まれ、実現することを期待しています。

運営委員 鵜尾雅隆

ひとつひとつの団体が、個々の団体の活動の枠を超えてつながり、協働していくという取り組みは、これからの地域社会の活性化のためにも、とても重要なことだと思います。地元自治体などともいい関係を構築しながら事業を推進している様子も伺えました。

運営委員 小河原孝生

治水と環境という両立が困難な課題を前に、4団体が連絡会を結成し、ご苦労されている様子が伝わりました。河川改修計画のスピードに対応し、実現可能な提案を作ることには大変ですが、区民や区の担当者を味方にして、東京都を動かしましょう。

運営委員 小原美穂

野川に関わるあらゆる立場の関係者をつなぐ試みだと感じました。「立場」による主張が対立することもあるかと思いますが、みなさんの活動を通じて得られるノウハウを地域内外へ展開できるととても参考になると感じました。

運営委員 影山知明

テーマに共感しますし、メンバーの広がり・専門性にも感銘を受け、可能性を感じます。ただ、助成金の使い方として、交通費や消耗品費ではなく、提案の次のステップ、つま

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

り、取り組みが地域に根ざし、多くの人を巻き込んでいくための用途となっていたらよりよかったのにと感じました。

運営委員 佐谷和江

それぞれの団体は力量があると思いますし、やりたいことははっきりしているので、ぜひ、目的を実現してください。治水と多自然型の両立は難しいかもしれませんが、何らかの解決策を編み出してくれることを期待しています。

運営委員 首藤万千子

以前、野川のカワセミを見て感動しました。治水は必要でしょうが、何とか、現在の様子を保ってほしいと願っています。長年野川の自然について活動をされた皆さんにしかできないことがたくさんあると思います。非常に大切な活動だと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

運営委員 福永順彦

野川にはよく散歩に行きました。ちょうど今が大切な時期のようですね。地域にお住まいの方、専門家など、様々な方々がそれぞれの立場で、地域のシンボルである野川を守る地道な活動は一区民としても、とてもありがたく感じます。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-6 T&I リーダーチーム 〕

運営委員長 土肥真人

多くの先輩や後輩と一緒に児童館の活動をサポートする伝統は素晴らしいと思います。今年まちづくり部門の助成ということもあり、ぜひ児童館も含む「まち」との関係を、若者の視点から考え、実践してもらいたいと思います。そしてそのときに見えてきた風景や問題を、発表会で教えて欲しいです。

運営委員 板垣正幸

若い高校生たちの地域活動に対する熱い思いを感じました。その気持ちを忘れずに是非頑張ってください。

運営委員 市川 徹

これからの地域を担う中高生が柱となる活動はぜひ応援したいです。活動に当たっては特に資金面が大変でしょうが、たとえば、イベントをするにしても、みんなで持ち寄りたりリサイクル品を使うなどしてなるべく支出を抑えたり、参加費を少しでももらうようにしたり、寄付を集めてみたりしてみてもどうでしょうか。

運営委員 鵜尾雅隆

若い皆さんのチャレンジ精神には、元気づけられました。助成金を得るということは、その資金で得たものについて、継続性や管理の責任が生じるということでもあります。デジタルカメラやテントといった物品については、本当に購入の必要があるのか、管理責任はだれが負うのか、皆さんの中でもしっかり議論してみてください。

運営委員 小河原孝生

はじめの一步から、さらに活動が広がっている事を実感。高校を卒業した後の継続性が心配でしたが、大学生として支援し、次の世代を育てているとのこと。自主企画キャンペーンの目的では「自分たちの成長が一番」との答えに感銘しました。

運営委員 小原美穂

自主的にこういった活動に取り組んでいることはとても素晴らしいと思います。ただ、このお金がこういった仕組みによって成立しているかをしっかりと理解して有意義に使ってください。そして、この活動が継続されるように工夫してみてください。

運営委員 影山知明

10代のメンバー、なかなか上下の世代と一緒に、という取り組みが限られていそうな

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

だけにその意義を感じます。ただ、これだけのメンバーが集まっているのであれば、フリーマーケット等、もっと自立的にできるのではと、励ましの意味を込めて厳しめに金額を入れさせてもらいました。

運営委員 佐谷和江

すごく期待しています！リーダーを中心にがんばってください。

運営委員 首藤万千子

皆さんの活動にはとても励まされる思いです。皆さんの周りの大人たちもきっとそう思っていることでしょう。まっすぐな眼差しで、自分たちの信じることを実行してください。時には大人の路線に疑問を感じることもあるでしょう。そんな時にはきちんと発言し、若者ならではの力を発揮してください。あとに続く子どもたちのためにも、無理せず楽しい活動を！応援してます。

運営委員 福永順彦

先輩にお世話になった人が、後輩の世話をする。かつては当たり前だった関係が実際にはあまり見られなくなりました。おそらくこの活動を通して学べることはとても多いと思います。途切れることなく、後輩につなげて下さい。こんな活動が地域に増えていくことを願って、満額票を入れました。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-7 SAN/せたがや地域共生ネットワーク 宮坂・経堂・赤堤 〕

運営委員長 土肥真人

活動内容に関わらず場を「ひらく」という点で連携するという発想には、たいへん感心しました。8 団体をつなぐ現在の道がより多くの「ひらかれた」場をつなぐ道となり、そしてまちとなり、人々の心もひらかれるというイメージは説得力があります。1, 2, 3年目の目的を独立したものとせず、1年目から、小さくても、2, 3年目の取り組みを始めていただければと思います。

運営委員 板垣正幸

地域で活動する様々な団体が情報を共有し、街づくりが広がることを期待します。

運営委員 市川 徹

地域の中で「開く」取り組みを増やそうという活動は大変意義のあるものですが、3年後の後にある将来のイメージが明確でなかったところがやや評価を下げたのかと思います。地域の中で「開く」場所が増え、それらが連携することで、こんなすばらしい地域になる！という夢を具体的に描けるとよかったかもしれません。

運営委員 鵜尾雅隆

「地域にある Private なものを Public なものにしていく」という発想は、コミュニティを魅力あるものにしていくうえでの重要なポイントだと思います。今回の助成を契機に、活動を更に活性化し、自己財源の開拓も含め、活動を発展させてください。

運営委員 小河原孝生

これまで2年間の拡がりが見えないこと、謝金が1/2を越えること、3年間の計画が見えないこと、夏のイベントがインドの文化？ と云うところに違和感を覚えました。5つのグループの特徴を活かして、自主財源の確保に努めてください。

運営委員 小原美穂

情報収集では、ひらいている「状態」だけでなく、どうしてひらくことができたのか？ ひらけている状態に至ることが出来た「カギ」をいっぱい集めてください。そのことが、その後の活動に役立つと思います。

運営委員 影山知明

地域共生のいへの取り組みがこのようにつながっていくことは画期的なことであると思います。ただ、ひらき、つながることでのどのような状況を目指すのか。その仮説がな

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

いと、どこにもたどり着けないのでは、とも。これから聞き取り調査等をやられるにしても、そうした仮説を一定もった上で、情報を集めていかれた方がいいように感じました。

運営委員 佐谷和江

私は「地域での居場所」にすごく興味をもっています。居場所に行く人にとって心地よいのは、そこでの人間関係が心地よいからだと思います。このため拠点を渡り歩く人がいるのかちょっと疑問です。なので、拠点同士のネットワークは運営者側のニーズなのでは？という気がしましたがよくわかりません。今年度の調査等の結果を期待しています。

運営委員 首藤万千子

「地域共生のいえ」の様々な試みに感銘を受けています。皆さんの活動が触媒となって、まちが変わっていくことを期待します。3年計画で、地域の課題解決に向けて成果が出るよう、どうぞよろしく願いいたします。

運営委員 福永順彦

自分の家を地域のためにひらく試みは、楽しさと大変さが共存しています。知らない人を受け入れることには勇気が必要です。しかし、誰かが何かを始めないと新しいことは何も生まれません。地域共生のいえや小さな森を実践している方々には、心から敬意を表します。それらがお互いにつながり、連携していくこの活動がどのような成果を生むのか、どんな課題が見えてくるのか？ その結果をとっても楽しみにしています。期待を込めての満額票です。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-9 東京グリーンプロジェクト 〕

運営委員長 土肥真人

土を作り、さわり、野菜を育て、食すことは、都会に暮らす私たちにとって、失われた大切な多くのものを取り戻す重要な機会だと思います。今年の秋には盛大な収穫祭が開かれるといいですね。助成金額が減額されていますが、ぜひ学校菜園を実現してください。

運営委員 板垣正幸

親子が「食」を通してコミュニケーションを深め、さらに父兄同士のつながりが深まることを期待します。

運営委員 市川 徹

申請書上の計画やプレゼンでは、農のすばらしさを子どもたちに伝えたい！という想いがよく伝わってきました。が、ずいぶんと内容が盛りだくさんな気がしますし、想いが先行している気がします。活動を始めるに当たっては、学校や地域のみなさんと相談しながら、あれもこれもと考えるのではなく、まずは地道に取り組んでほしいと思います。

運営委員 鵜尾雅隆

様々な組織や活動を巻き込もうとする努力はとても良いと思います。自己財源については、更に獲得する努力をしていただきたいということ、また、実際の事業として本格的に着手していくのはこれからであるということから、まずは着実に進めていただきたいということで、金額面では減額査定しています。

運営委員 小河原孝生

家庭でペットボトル堆肥をつくり、子どもに無農薬野菜を！という理念には賛同するのですが、受益者が限られること、謝金と堆肥枠や学年枠の費用が大きすぎることで、映画上映が1日限りであることに不安を感じました。協賛金獲得に努力してください。

運営委員 小原美穂

子どもの頃から食に対する意識を高めていくことにはとても共感します。提携予定の小学校のみならず、いかに地域と連携できるかがポイントだと思いました。

運営委員 影山知明

実際に畑を確保できるかどうかで活動成果が大きく変わってきますね。ペットボトルた

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

い肥のような取り組みは、小学生等もきっと参加しやすく、広がりをつくるいいアイデアであると感じました。専門性も感じられ、これからの成果、楽しみにしたいと思います。

運営委員 佐谷和江

子どもたちが土に親しむ機会をつくることは非常に重要だと思っています。ぜひ、実現させてください。

運営委員 首藤万千子

農業の楽しさ、野菜くずが土になる不思議さを子どもたちに伝えていくのは大人の責任だと思います。そんなことが、小学校と連携してできるのは理想的だと思います。ただし学校と関係を築いていくのは時間がかかることなので、じっくり取り組んで、できることからやっていくというのがいいと思います。大変期待しています。

運営委員 福永順彦

地域で新しい取り組みに挑戦されることに対して、応援したくなる気持ちが生まれます。実践していく課程で、少しでも多くの地域の方が参加し、理解者が増えていくことを期待しています。ぜひ、問題点や課題も含めてご報告いただき、取り組みの成果を地域に還元していただきたいと思います。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-10 水俣世田谷交流実行委員会 〕

運営委員長 土肥真人

満額助成おめでとうございます。ドキュメンタリのテーマは障害、芝居にあるのだと思いますが、ぜひもうひとつ「まち」「地域」という視点を組み込んだ素敵な映像を制作してください。ファンドの発表会では時間が足りないでしょうから、運営委員やファンド関係グループのメンバーを上映会へ誘ってください。

運営委員 板垣正幸

障害者を中心とした芝居づくりを進めるだけでなく、その過程をドキュメンタリーとして映像記録することは大変興味ある企画だと思いました。

運営委員 市川 徹

障害者と健常者がいっしょになって演劇をつくり、それを広め気づきを得る取り組みはぜひ応援したいです。が、単純に自分たちの取り組みだけで終わるのではなく、地域を巻き込んだ仕掛けを考えるなど、ぜひ地域へと広げてほしいと思います。DVDにして上映するのもよいですが、インターネットの活用も考えてみてはいかがでしょうか？

運営委員 鵜尾雅隆

芝居やドキュメンタリー映像作成という切り口で、障がいを持っている方と地域社会が接点を持つ場をつくっていきこうという試みは大変素晴らしいと思います。また、地域にみなさんとの対話、技術移転という視点も良いですね。是非頑張ってください。

運営委員 小河原孝生

芝居づくりのおもしろさを映像で伝えたい・・・ことの、どこが地域づくりにつながるのか？ と疑問に思っていたのですが、プレゼンを見て氷解しました。障害者が地域で生活する事の意味を、芝居づくりのプロセスを通して伝えてください。満額です。

運営委員 小原美穂

地域において支援する・される関係性を変え、その先の「普通の関わり」というものがどのようなものになるのか、ぜひ、挑戦してください。私もどのような関係性なのか考えたいと思います。

運営委員 影山知明

お芝居や映像をつくることとともに、それらをどう知らせ、興味を持ってもらうかという点についての工夫が必要であると感じました。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

運営委員 佐谷和江

活動の意義は非常に高いと思います。ポスターセッションの時に「技術移転」について質問しましたが、DVDを見ただけで障害者の生活支援をするのは難しいと思います。あまりそのことにこだわらず、ぜひ、若い世代に共生のモデルを何らか提示して行ってください。

運営委員 首藤万千子

地域で障がいのある人とない人が一緒に生きるモデルづくりについて大きく期待します。グループ内の障がいのある方に半生を語ってもらい、伝えたいことを芝居の台本にしていくという計画は大変興味深いです。皆さんの力強い生き方が地域の人を励ますでしょう。たくさんの交流の機会があるようにと願っています。お芝居上演楽しみです。

運営委員 福永順彦

自分の身近に様々な特長、特性を持った人が暮らしているというあたりまえのことに、ひとりでも多くの方が気づくこと、そのことが住みよいまちづくりにつながると信じています。そのきっかけを増やす取り組みに、でき得る限り参加し実践し、協力していきたいと考えて満額票を入れました。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-12 ユニバーサル・キッズ・デイキャンプ 〕

運営委員長 土肥真人

子どもたちが管理の都合ではなく一人ひとりの状況に応じて行動できるようにする、その一環として屋外イベントを、という提案には強く共感しました。ただ、この活動とまちづくりあるいは地域との関係がどのように築かれるのかは、よく理解できませんでした。発表会ではぜひ、活動の成果にまちづくりの視点をとりいれて、教えてください。

運営委員 板垣正幸

長期入院を余儀なくされている子供たちに向けて戸外でのイベントを企画されることは大変意義あることと思います。子供たちの笑顔が浮かびます。

運営委員 市川 徹

活動の意義はぜひ応援したいと思います。が、一回のイベントとして考えた場合、やはり費用対効果という面で評価が下がってしまったのかもしれませんが。一回のイベントでなくてもよいので、入院中の子どもたちや地域の人たちと一緒につくっていけるイベントができるといいですね。あと活動資金もうまく集められるように検討してみてください。

運営委員 鵜尾雅隆

国立成育医療センターに入院する難病などの子どもたちに、世田谷の地域に触れ、体験する機会を提供しようという取り組み、その着想は大変素晴らしいと思います。病院側との本格的な交渉はこれからとなりますが、万一の場合の代替案も検討されておられる様子ですので、是非とも実現して欲しいという期待も込めて満額支援とさせていただきます。

運営委員 小河原孝生

謝金が1/2を占め、活動は児童福祉そのもので、どのようにまちづくりにつながるのか？との疑問は、プレゼンで解けました。謝金を除いた金額をつけましたが、ぜひ、他の病院や団体・企業との協働を通して、地域とのつながりを拡げてください。

運営委員 小原美穂

「入院生活」はなかなか実情が見えない環境だと思います。子どもたちが生きる力と勇気を持てる環境づくりが、住みよいまちづくりになることを期待しています。

運営委員 影山知明

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

いままで実現されてこなかった課題が、今回の助成金だけで解決されるのか疑問でしたが、病院と連携しながら、一步ずつできるところから、というお話をお聞きしイメージが湧きました。その先のステップとして、他のこどもたちとの接点づくりなどを含め、まちづくりにつながる活動へと育つよう、応援したいと思います。

運営委員 佐谷和江

活動の趣旨は素晴らしいと思いますが、実現性が気になりました。他の団体にも共通しますが、申請する前にもう少し実現できるかの当たりをつけた方がいいと思いました。しかし、助成金を得たので、ぜひ、実現のためにがんばってください。

運営委員 首藤万千子

「子どもたちの遊ぶ権利」に関連する、とても大切な活動だと思います。日本の子どもたちの医療の根本的な姿勢に疑問を投げかける取組ではないでしょうか。たまたまそういう病院が世田谷にあるのであれば、世田谷区民は協力をするべきだし、それはそのまちづくりのためにとっても有効に働くと思います。ただ、スケジュールどおりに運んでいくのが大変そうに見受けられました。じっくりと大切に活動を育ててください。大変期待しています。

運営委員 福永順彦

「まちづくりファンド」という形で支援する対象となるのか、正直、最初は迷いました。しかし、説明を聞いて腑に落ちました。世田谷にある国立成育医療センターという場所に、ほとんど外に出られない子供たちがいることに気づき、高い制度のハードルを越えて、地域で支援しようとするこの活動は、私には「まちづくり」そのものだと思えました。5票の枠の中で迷いましたが、結果満額でなくてすみません。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-13 放課後あそび舎 〕

運営委員長 土肥真人

学校と校庭にはない、自然とまちと近所の人々と触れ合うことが、こどもの成長に大切だという主張と提案に、賛同しました。ぜひ地域のさまざまな人がこどもの成長の過程に現れ、喜ぶ子どもの姿から大人が学べる、そんな機会を作ってくださいよう願っています。

運営委員 板垣正幸

学童クラブの子供たちが地域の方と触れ合ったり、地域の環境と人を知ることは大切です。くれぐれも子供たちの安全に気をつけてサポートしてください。

運営委員 市川 徹

従来の学童クラブではできない外遊びの活動に自分たちで取り組もうという姿勢はぜひ応援したいです。地道に活動を続けて地域を巻き込みながら賛同者やスタッフを徐々に増やしていく一方で、現存する学童クラブや学校との関係にも気を遣ってほしいと思います。また、外遊びの場合、けがや事故がないように注意してください。

運営委員 鵜尾雅隆

自分も子どもがいて、放課後にBOPに通うのですが、確かに今、外や自然に触れて安心して遊ぶことが難しい環境になっているのは事実だと思います。子どもたちを実際に放課後に外で遊ばすうえで、安全面や運営面で乗り越えなければならないこともあるかと思いますが、是非、学校側ともいい連携をして、着実に進めていただければと思います。

運営委員 小河原孝生

外遊びの重要性には賛同するのですが、受益者が限られ、講師を招いた川遊びやたこ揚げがどのように地域づくりにつながるのか？ 疑問に思いました。協力者を募集し地域に拡げるために、助成金を活用してください。

運営委員 小原美穂

みなさんの活動が発展して、将来、子ども達が自分のまちで自由に冒険できるような環境になることを期待しています。（個人的には安全は監視カメラだけではつukれないと思います。）

運営委員 影山知明

外遊びがなかなか実現しないのは、指導員の不足ゆえのみなのでしょうか。またその間

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

題は助成金があることで解決されるのでしょうか。そうした課題の全体像を聞けるとより納得感があつたように思います。

運営委員 佐谷和江

意義ある活動だと思います。学童クラブが世田谷が全国に誇る資源であるプレーパークを使ってないことに愕然としますが、その改善を待ってられないですからね。ぜひ、多くの子どもたちに貴重な機会を提供するようがんばってください。

運営委員 首藤万千子

学童保育の時間が延長され、学校にいる時間が長いことについては常々とても疑問を感じていました。子どもたちが自分のまちを知り、そこで楽しい経験をたくさんすることはとても大切なことと思います。プレーパークともぜひ連携してください。子どもの見送りなど、大変なことも多いと思いますが、ぜひ続けて、発展させていただきたいと思います。

運営委員 福永順彦

子供たちには、外で遊んでもらいたい。自分もそうやって遊んできた経験を持っています。そんな当たり前のことが今、難しいことはとても残念です。地域の方々のサポートが得られる活動に展開していくことを期待しています。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

〔 1-14 EARTH CREW 〕

運営委員長 土肥真人

イベントを軸に活動されるということですが、それぞれのイベントのイメージ、どのような方々が参加されるのか、また参加者のその後のつながりなど、まだ私にはイメージができていません。発表会では多くのイベントを通して、どのようなつながりが生まれ、まちに組み込まれたのか、多くの方々の笑顔とともに報告していただければと思っています。

運営委員 板垣正幸

環境問題は地球的規模の深刻な問題となっており、それには身近なところから行動することが大切です。引き続き具体的な企画を期待します。

運営委員 市川 徹

やや企画内容が盛りだくさんなので、やりきれるか心配なところではありますが、地球をテーマに多様な手段で多くの人々に関心を持ってもらおうという試みは面白いと思います。確かに地球というテーマはどの活動にも共通かもしれませんが、逆に地域から離れてしまう可能性もあります。地域に根ざした活動という視点を忘れずに取り組んでください。

運営委員 鵜尾雅隆

2009年に独自にアースフェスタを立ち上げておられ、今後の企画としても発想としても面白いと思いますし、組織づくりをしていくということも理解できたのですが、地域の幅広いステークホルダーの参加が更に具体的にイメージできる内容だとなおよかったと思います。

運営委員 小河原孝生

発信と交流の場を提供できる組織作りには賛同するのですが、イベントを軸にしたまちづくりのプロセスが見えてきませんでした。私は印刷費としての10万円をつけましたが、協賛金の獲得に努力して、次につなげてください。

運営委員 小原美穂

テーマである「地球と世界と地域をつなぐ町づくり」が、いかに地域の人たちにとって住みよい環境になるか、が重要なポイントになると思います。地域との連携を上手くはかってみてください。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（1回目） 】

運営委員 影山知明

アイデアはそれぞれおもしろそうに感じましたが、ひとつひとつの実現可能性、インパクトの大きさはどうなのでしょう。またそれぞれの活動から、もう少し自立的に収入を生み出すこともできそうに思いました。

運営委員 佐谷和江

実行委員会形式でエコ関係のイベントを開催するという事に何も問題はないと思いますが、意義を感じにくい活動になっているのがもったいないと思います。再度、ビジョンやミッションを考えみてはどうでしょうか。

運営委員 首藤万千子

とても魅力的な活動ではあるのですが、地域の市民活動者はどのような切り口から関わっていただけるのだろうか、と疑問を感じました。これは想像力が乏しいからかもしれません。

世田谷発のグローバルな視点で多様な活動をすすめていくことについてはとても評価すべきとおもいますが・・・。

運営委員 福永順彦

一過性でないイベントをつくろうとする取り組みに期待しています。もう少し地域との接点が具体的に見えると、さらに良いと思いました。